



伊坂 陽 先生
江東病院 整形外科

略歴
2006年 順天堂大学卒業
同 年 順天堂大学静岡病院
2009年 中伊豆温泉病院
2010年 伊豆保健医療センター
2011年 山梨県立中央病院
2012年 江東病院 現在に至る

SCORPION® NEOプレートの使用経験

はじめに

鎖骨遠位端骨折は不安定で整復位の保持が困難であるため癒合しにくい。当院では、転位のあるものは、積極的に手術治療を選択している。SCORPION® NEO (図1) を使用した手術方法を報告する。

手術方法

体位はベッドアップ45～60度程度の半座位で、骨折部をイメージや触診で確認しながらマーキングを行う。鎖骨直上でアプローチし、約8cm前後の皮膚切開で行う(図2)。肩鎖関節は23G針やイメージで確認しておく。骨折を整復後、肩鎖関節部もしくは肩峰からKワイヤーを刺入し、仮固定を行う。鎖骨下面に烏口鎖骨靭帯が付着する骨片がある場合、デシャンを用い、Fiber Wire 1～2本を、あらかじめ通しておく。(術中の所見によりプレート固定後に行う場合もある。)あるいは骨片をエレバなどで持ち上げ、整復位を保持する。鎖骨遠位端の幅を目安にプレートのサイズを選択する。フックは2ヶ所あるが、最遠位のフックが骨片を捉えられる位置に設置する。フック先端が鎖骨遠位端ぎりぎりになるくらいが適度な位置と考えている。鎖骨下面の骨片をエレバやかけておいたFiber Wireで持ち上げながら、フックを7割程度締める。近位スクリー固定後、同様の手技をしながら、フックを完全に締める。遠位骨片は粉碎していたり、骨質が低下していたりすることが多く、その場合にはバックアウトを懸念し、プレートの最遠位にスクリーへの挿入は行わない。Fiber Wireは最終的にプレートのフックにかけて締結し、プレート脱転の予防や遠位骨片固定の補強とする。このときFiber Wireが動かないようにするため、必ずフックにかかるようにする(図3)。後療法は術後三角巾で固定し、外転挙上は1W後より45度まで、2W後より90度まで許可、4W後よりROMフリーとしている。



図1



図2

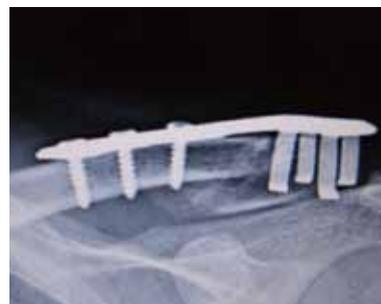


図3

症例

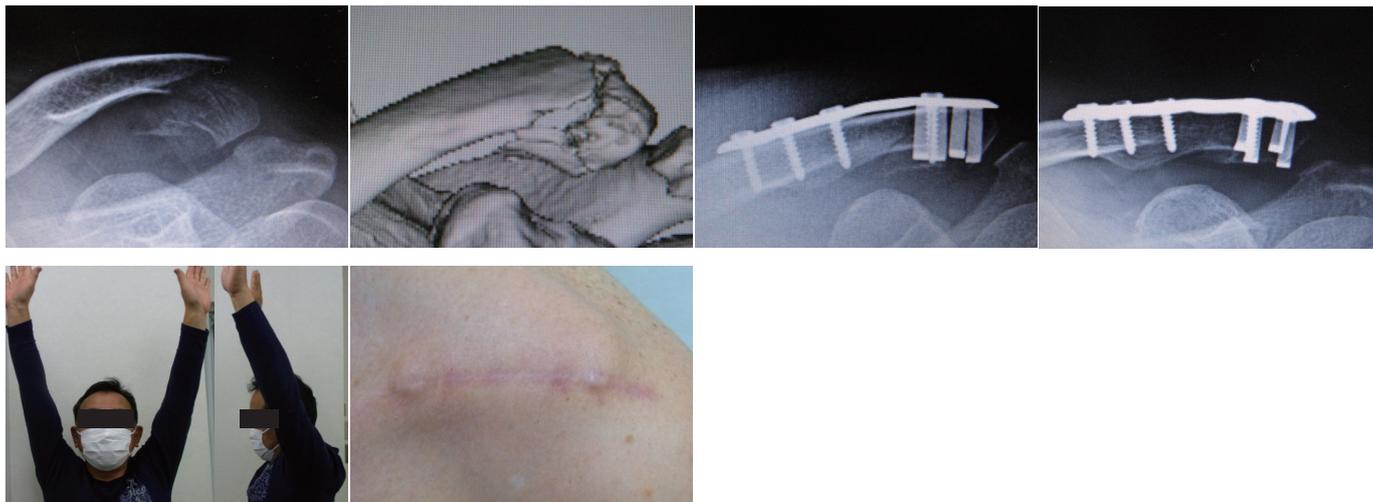
本法を3症例に施行し、全例骨癒合した。可動域制限なく、疼痛は認めず、皮膚症状の訴えもなく合併症は見られなかった。

症例1 51歳男性。Craig分類IIa。野球中に転倒して受傷。DMコントロールが不良のため、DM治療を行った。受傷後23日目に手術を施行。

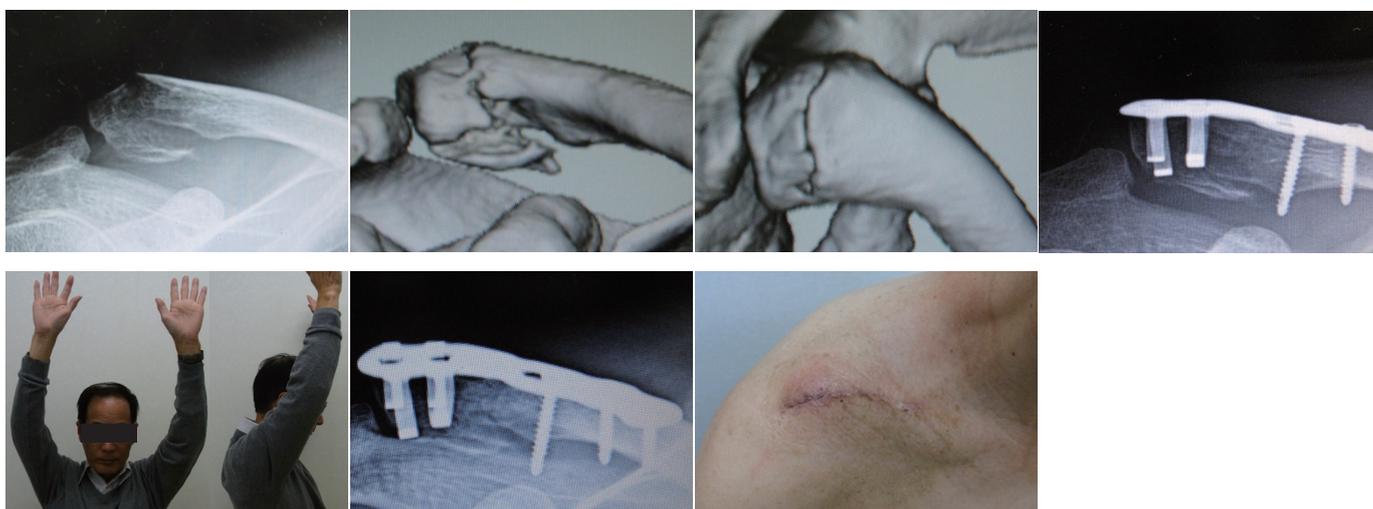


SCORPION®NEOプレートの使用経験

症例2 55歳男性。Craig分類V。受傷後10日目に手術を施行。



症例3 63歳男性。Craig分類V。自宅で転倒して受傷。右鎖骨遠位端骨折の診断で受傷後6日目に手術を施行。



■ 考察

従来のSCORPION®プレートは遠位骨片をフックでとらえ、Fiber Wireを追加することでさらに強固な固定が得られ、可動域制限なく大きな問題を認めることは少なかった。しかし、遠位骨片が10mm以下では肩鎖関節部にかかるくらいにプレートを遠位に設置する必要があった。SCORPION® NEOはフックが2か所で最遠位のフックはより遠位に設置されている。そのため、遠位骨片が10mm以下の小骨片に対しても使用しやすくなったと考える。鎖骨遠位端骨折における手術法はTBW法やロッキングプレートによる骨接合術などさまざまあるが、遠位骨片が粉碎していることも多く、ワイヤーやスクリューがなかなか骨片をとらえることが困難な場合もある。SCORPION® NEOはフックにより軟部組織も含めて抱え込むことで固定性が良好となると考えている。実際、術中に固定性の確認で

上肢を他動的に動かしても骨折部は全く動かない印象である。

また鎖骨遠位の形状はやや彎曲しており、従来のプレートではベンディングする必要があった。SCORPION® NEOはプレート遠位が彎曲した形状で、ベンディングする必要が少なくなった。そのため、プレート先端の皮膚への突出が軽減され、皮膚トラブルも緩和できると考える。症例にもよるが、プレートがストレートの場合は固定後に鎖骨遠位が少し浮き上がる印象となる(肩鎖関節脱臼のようにみえる)。しかし、本インプラントではその浮き上がりは少ない印象である。症例1は最初にSCORPION® NEOを使用した症例で、従来のSCORPION®プレートと同様の設置位置を意識しすぎたため、やや遠位に設置している。

症例2, 3は適切な位置となっていると考える。SCORPION® NEOはフックの位置がより遠位となっているため、肩鎖関節にかからずに設置が可能である。また遠位骨片が粉碎している場合でも、靭帯の付着して骨片や、軟部組織ごとフックで締結し、遠位骨片を強固にとらえることが可能である。本インプラントは鎖骨遠位端骨折の骨接合術に対して非常に有用と考える。

製造販売業者: 株式会社 **Aimedic MMT**

〒108-0075

東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス

TEL: 03-5715-5211 / FAX: 03-5715-5265

URL: <http://www.aimedicmmt.co.jp/>



製品WEBページ



医療機器承認番号: 21300BZY00016000 | 販売名: スコーピオン (Ti)

医療機器承認番号: 21300BZY00453000 | 販売名: スクリュー (チタン) | CRN03-02-1701-1500E03